

一橋大学大学院社会学研究科研究科内センター

平成 27 年度活動報告書・平成 28 年度事業計画概要

|                  |                                                                                                                                                     |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| センター             | 名称:ジェンダー社会科学研究センター<br>ウェブサイト: <a href="http://gender.soc.hit-u.ac.jp/">http://gender.soc.hit-u.ac.jp/</a><br>学内活動拠点・同電話番号:貴堂研究室 別館2階 042 (580) 8492 |
| 報告者<br>(センター代表者) | 氏名:佐藤文香<br>電子メール:fumika.sato@r.hit-u.ac.jp                                                                                                          |
| 報告書提出年月日         | 2016 年 4 月 4 日                                                                                                                                      |

平成 27 年度活動報告

社会学研究科内センター規程「(別表)研究科内センター設立申請書作成時の留意点」の内容も踏まえ、以下の諸点につき項目別に具体的かつ明確に記述してください。記載は 10.5 ポイントで行い、必要に応じて欄の仕切りを上下に調整し、最大でも3頁以内に全体を収めてください。図表を含める場合も、この範囲に収めてください。

1. 組織構成員の異動と理由説明

2015年度は、代表(佐藤文香)、教育部門総括1名(太田美幸)、研究部門総括3名(伊藤るり、貴堂嘉之、森千香子)、総務・財務部門総括1名(坂なつこ)と、共同推進者20名(井川ちとせ、大河内泰樹、尾崎正峰、木本喜美子、小井土彰宏、洪郁如、坂元ひろ子、中野聡、山田哲也、越智博美、河野真太郎、川口大司、竹内幹、イ・ヨンスク、中井亜佐子、横山泉、井上間従文、柘植道子、長塚真琴、Chris Ahmadjian)の組織構成員で活動を行った。

2. 当初事業計画に照らした活動実績

2.1 教育実績

ジェンダー教育プログラム(GenEP)部門では、2007 年度より全学的なプログラムを提供してきた。学部基幹科目群を9科目、大学院基幹科目群を5科目、学部連携科目群として25科目、大学院連携科目群として10科目、合計49科目を提供した。履修者数は3666名(ただし学部生のみ)であった。全体としてプログラムの科目群はより充実し安定した運営を行うことができているといえる。また、2012 年度に開始した女性学・女性史研究者の第一世代に対するライフストーリーの収集・記録プロジェクトを継続する形で、先端課題研究14「ジェンダー研究の過去・現在・未来 ―女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」は開講2年目となり、17名が参加した。

2.2 研究実績

本センター構成員の個々の研究実績は多岐にわたるため、代表および部門総括の業績の一部を掲載する。

- ・佐藤文香, 2015, 「軍事化とジェンダー」『社会運動』419号
- ・佐藤文香, 2015, 「闘う ―戦争・軍隊とフェミニズム」伊藤公雄・牟田和恵編『全訂新版 ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
- ・中林健・佐藤文香, 2015, 「国際平和活動におけるジェンダー主流化 ―軍のジェンダー・アドバイザーの機能に焦点を当てて」『国際ジェンダー学会誌』13号
- ・メアリー・ルイーズ・ロバーツ, 佐藤文香監訳, 西川美樹訳 2013=2015『兵士とセックス ―第二次世界大戦下のフランスで米兵は何をしたのか?』明石書店
- ・Ito, Ruri. 2016. "Negotiating Partial Citizenship under Neoliberalism: Regularization Struggles among Filipino Domestic Workers in France (2008–2012)." *International Journal of Japanese Sociology*, Vol.25, Issue 1, pp. 69-84. (doi:10.1111/ijjs.12046)
- ・貴堂嘉之「移民国家アメリカの優生学運動―選び捨てるの論理をめぐって―」『歴史評論』2015年4月号, 歴史科学協議会
- ・貴堂嘉之「政治風刺画家トマス・ナストのライフストーリー」『立教大学アメリカン・スタディーズ』通巻37号、立教大学アメリカ研究所、2015年5月

## 2. 3 外部機関等との連携および社会貢献の実績

### 【外部機関等との連携】

外部講師を招聘し、下記の講演会を開催した

①公開レクチャー・シリーズ(第31回)2015年4月24日

講師:ガベバ・パデルーン、タイトル「東アにおける奴隷制、イスラム、そして人種と性の構築」司会:中井亜佐子(国内交流セミナー(社)) 参加者:47名

②公開レクチャー・シリーズ(第32回)2015年6月24日

講師:メリッサ・ライト、タイトル「麻薬政治、死政治、女性殺人—メキシコからの教訓」司会:伊藤るり(国際交流セミナー(法)) 参加者:28名

③公開レクチャー・シリーズ(第33回)2015年7月15日

講師:サミア・ジャラ、アブデラリ・アジャット、タイトル「ヴェールの政治学—ジェンダー・身体・植民地主義」、司会:森千香子(国際交流セミナー(法)) 参加者:68名

④公開レクチャー・シリーズ(第34回)2015年10月23日

講師:上野千鶴子、タイトル「何を怖れる—フェミニズムを生きた女たち」司会:佐藤文香(国内交流セミナー(社)) 参加者:176名

### 【社会貢献】

公開レクチャー・シリーズは、毎回、学会や市民ネットワークを通じた広報を行っており、学外からの研究者および市民にも開かれたイベントとして広く社会貢献に役立っている。レクチャー・シリーズは常に50名前後の参加者を集めており、本センターの開催するイベントに対し学内外から高い期待が寄せられている。

## 2. 4 外部資金獲得実績

なし

## 3. 平成28年度事業計画概要

平成28年度は、下記の5点を行うこととする。

(1)ジェンダー教育プログラムの安定的な運営を行う。

(2)共同推進者の協力を仰ぎつつ、公開レクチャー・シリーズを企画・実施する。

(3)先端課題研究14「ジェンダー研究の過去・現在・未来—女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」は3年目の調査を行いつつ、叢書の複数巻刊行に向けて検討を開始する。

(4)9月10日に一橋大学で開催される国際ジェンダー学会において、CGraSS10周年記念行事として、シンポジウム「大学におけるジェンダー研究センターの来し方・行く末を考える」を開催する。

(5)12月10日(土)~11日(日)に開催する、国際シンポジウム「移住・家事労働者の権利保障とILO189号条約—アジア、ヨーロッパ、アメリカ、そして日本」(仮題)[科研費基盤研究A(代表者:伊藤るり)]プロジェクトの支援を行う。

## 4. 平成28年度における組織改廃計画

代表および各部門総括は今年度も継続する(2年任期)。共同推進者には、ソニア・デール(特任教員)が新規で加入する。

## 5. その他特記事項(研究科への要望等は本欄には書かず、別途研究科長にご相談ください。)